

一般社団法人 日本肉腫学会 緊急理事長声明:

ASCO2026におけるYAP/TAZ-TEAD阻害薬の画期的な成功を讃え、がんメカノバイオロジー治療の新時代を宣言する

本日より開幕する2026年米国臨床腫瘍学会(ASCO 2026)において、がんの浸潤・転移を根底から制御する画期的な「YAP/TAZ-TEAD阻害薬」の臨床試験(第2相)が驚異的な好成績を収めました。一般社団法人日本肉腫学会(JSA)は、この歴史的快挙を心より讃えるとともに、希少がんである肉腫(サルコーマ)治療およびがん微小環境における「メカノバイオロジー(細胞力学)」が、ついに人類を救う実用薬へと結実した新時代の到来を公式に宣言いたします。

物理的・力学的特性が細胞の運命を決定づけるという新大陸に最初に旗を立てたのは、我が国の基礎生化学研究でした。かつて細胞生物学において、細胞の運動制御はモータータンパク質(ミオシン側)の化学的シグナルに偏重していました。その主流に抗い、私たちは1986年にアクチン(骨格側)の強力な分子ブレーキとして『カルポニン(Calponin)』を世界で初めて単離・同定しました。

それから40年。北欧ヘルシンキ大学のペッカ・ラッパライネン教授らによる超解像構造解析がカルポニンを「張力制御の運命のスイッチ」と再定義し、2025年1月の最新論文(Nguyenら)がカルポニン3の再構成とYAP1の核内移行(シグナル暴走)の直接的な因果関係を証明しました。そして今、米国カリフォルニア大学の管坤良(Kun-Liang Guan)教授らが解き明かした下流の「YAP/TAZ-TEAD軸」を遮断する創薬が、難治性がんや肉腫において「病勢コントロール率86%・奏効率32%」という驚異的な臨床成績を得て、ASCO2026の舞台上、がんの転移を物理的に阻害するという医学史上の新たなパラダイムに高レベルの臨床的な結実をもたらしたのです。当学会の源流は、有効な薬物治療に乏しい肉腫患者・ご家族の切実な願いと、基礎・臨床の知見の融合にあります。日本肉腫学会は、私たちが率いる亀田総合病院肉腫総合治療センター(肉腫科、肉腫外科)の豊富な肉腫臨床のリソース(手術検体等)を国内外の研究者へ開放し、この日・米・欧の科学のバトンリレーを次世代の根治を目指した肉腫治療薬(メカノ医薬)へと繋ぐアンカーとしての使命を果たす所存です。

2026年5月29日

一般社団法人 日本肉腫学会(JSA) 理事長

亀田総合病院肉腫総合治療センター長

医学博士 高橋 克仁